

オールドノリタケ×若林コレクション アールヌーヴォーからアールデコに咲いたデザイン

壺中日月長 大樋陶冶斎のまなざし

《色絵金盛薔薇文飾壺》
1891-1921年頃 若林コレクション蔵
一企画展「オールドノリタケ×若林コレクション」より

大樋陶冶斎《黒陶「生命の木」》
2019年 大樋美術館蔵
一企画展「壺中日月長 大樋陶冶斎のまなざし」より

■ 百工比照【前田育徳会尊經閣文庫分館】

■ 古九谷と再興九谷Ⅱ【古美術】

■ 優品選【近現代絵画・彫刻】

- ミュージアムショップのおすすめグッズ
- 学芸室の人々
- バスツアー 参加者募集！
- 9月の行事予定
- アラカルト

企画展(第7~9展示室)

オールドノリタケ×若林コレクション アールヌーヴォーからアールデコに咲いたデザイン

主催/北陸中日新聞、石川テレビ放送、石川県立美術館

後援/石川県、金沢市、金沢市教育委員会、NHK金沢放送局、エフエム石川 特別協賛/東海東京証券

9月18日(土)~10月17日(日) 会期中無休

オールドノリタケとは、名古屋を拠点とする株式会社ノリタケカンパニーリミテドのルーツ、森村組および日本陶器によって、明治中期から第二次世界大戦期にかけて製作・販売・輸出された陶磁器を指します。日本産の洋風陶磁器の先駆けとして海外でも高い評価を得、今や世界中のコレクターから愛されています。

19世紀後半、欧米では万国博覧会が各地で催され、日本をはじめとする異国への関心が高まりを見せていました。そのなかで、明治政府の殖産興業政策の一環として生産が強化された輸出陶磁器が、万国博覧会などを通じて欧米各国に紹介されました。はじめは和の意匠や表現がもてはやされた輸出陶磁器ですが、やがて欧米の顧客のニーズをいち早く取り入れた新しいデザインが次々に生み出されていきました。時代の流行に沿いつつ豊かな展開を見せたオールドノリタケは、現代の私たちの眼にも新鮮に映ります。

本展覧会では、欧米に学びながらも独創的な表現を拓いたオールドノリタケの陶磁器やデザイン画など約150件を「モチーフ」、「スタイル」、「テクニク」、「ファンクショナル」の4つの観点から読み解きます。多種多様な意匠、技法、器種を網羅し、日本屈指のオールドノリタケコレクションである若林コレクションから、選りすぐりの優品の数々をお楽しみください。

◆観覧料

一般…一〇〇〇円(八〇〇円)

高校・大学生…八〇〇円(六〇〇円)

小・中学生…五〇〇円(三〇〇円)

未就学児…無料

※(一)内は前売り・20名以上の団体料金

※身体障がい者手帳、療育手帳、精神障がい者保健

福祉手帳、ミライロIDをご提示の場合は、ご本人様は前売り料金、そのお付き添い一名様は無

料でご入場いただけます。

※各種割引は重複してご利用いただくことはできません。ご了承ください。

◆関連事業

記念講演会「オールドノリタケ出現の秘密—明治のホットライン「米状神聖」—」

日時…9月25日(土) 13時30分~15時

講師…金子賢治氏(茨城県陶芸美術館館長)

会場…当館ホール

定員…先着100名、聴講無料

※聴講には本展の観覧券(観覧済半券可)が必要です。就学前のお子様はご遠慮ください。

記念コンサート

「後期ロマン派から近現代に咲いた巨匠たち」

日時…9月23日(木・祝)

①11時~ ②13時~ (各1時間)

出演…ルドヴィート・カンタ氏(チェロ)、鶴見彩

氏(ピアノ)

曲目…R・シュトラウス「ロマンス」 滝廉太郎

「荒城の月」 成田為三「浜辺の歌」ほか

会場…当館ホール

定員…各回100名(全指定席)

料金…2000円(観覧券とセット)

※北陸中日新聞販売店またはチケットぴあ(P

コード:1991289)、石川県立音楽堂チ

ケットボックスで、記念コンサートセット券を

お買い求めください。9月19日(日)まで販売し

ます。詳細は追って企画展特設サイトにてお知

らせします。

※コンサートチケットのみのご購入はできません。

※やむを得ず、出演者、曲目が変更となる場合がございます。

色絵食器揃
(フランク・ロイド・ライトデザイン)
1923-40年頃
すべて若林コレクション蔵

《色絵ラスター-彩花文鳥付掛花入》
1920-31年頃

《色絵金彩藤文花瓶》
1891-1921年頃

《色絵ラスター-金彩格子文化鞋品入・香水瓶》
1920-31年頃

企画展(第5・6展示室)

こちゅうじつげつながし

壺中日月長 大樋陶冶斎のまなざし

主催/石川県立美術館 共催/北國新聞社

後援/北陸放送、石川テレビ放送、テレビ金沢、北陸朝日放送

特別協力/大樋美術館

9月18日(土)~10月17日(日) 会期中無休

学芸員の眼

大樋陶冶斎といえは、まずは茶盃ちやわん。そして日展、現代工芸美術展などの公募展出品作のように、造形的な花器や壺を思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか。しかし、それだけにとどまらず、陶冶斎はふくろうをはじめ、ふぐや兎など愛らしい生き物をモデルとした作品オブジェも制作しています。そのなかでも、ふくろうが自身にとつて思い入れの深い鳥だといえます。幼き陶冶斎の家の木にやってくるふくろうは餌をくれる人間を見分けたり、危険を少しでも察知すると木に降りて来ないなど、非常に賢かったと語っています。

《鉛釉福朗ふくろう》は、丸みを帯びた柔らかい形の中に、シャープな線刻や飛鉋のような装飾が施されています。右目は金色、左目は銀色で、福朗が太陽と月を見ているかのような表現となり、かわいらしさとともに神秘的な雰囲気をも感じられるでしょう。

大樋陶冶斎《鉛釉福朗》
2021年、大樋美術館蔵

陶芸家 大樋陶冶斎おひとうやさいには、伝統を継承する茶陶作家と現代陶芸を牽引する造形作家という二つの側面があります。三五五年の歴史を持つ大樋窯の継承者としての「十代大樋長左衛門」、土による自由な造形を極めた「大樋年朗」。長年に渡ってこの二つを並行して活動を続け、現在は「陶冶斎」と号しています。

「壺中日月長こちゅうじつげつながし」は陶冶斎が自身の作陶について例えた禅語です。「壺中」は現実と隔絶した別天地、転じて時を忘れるような境地に至ること、「日月長」はいつのまにか長い年月が過ぎていたことを意味します。無心に作品をつくり続けていたらあつという間に今日になっていた、陶冶斎の生き方を表す言葉といえるでしょう。

本展覧会は3部からなります。初期からの作品と、作陶するうえで研究した古今東西の古陶などの比

較展示による第1部。十代大樋長左衛門作《黒茶盃 銘 汲古》を中心に据えた茶席仕立ての第2部。かたちや紋様に焦点をあて、造形的な作品を集めた第3部。この三つの視点から陶冶斎独自の表現を紹介し
ます。

○作家プロフィール
一九二七年金沢市生まれ。本名奈良年郎。一九四九年、東京美術学校(現東京藝術大学)卒業。翌年に日展初入選。その後特選、文部大臣賞など受賞を重ねる。一九八七年「十代大樋長左衛門」を襲名。一九八四年日本芸術院賞受賞。一九九九年日本芸術院会員就任。二〇〇四年文化功労者の顕彰、二〇一一年文化勲章受章。二〇一六年「長左衛門」の名跡を長男に譲り、「陶冶斎」と号する。

大樋陶冶斎《黒陶幾何紋花器》
2018年、大樋美術館蔵

百工比照

9月18日(土)～10月17日(日) 会期中無休

学芸員の眼

五代藩主前田綱紀が『百工比照』を製作した背景について、新村と郷家は「色漆類」の中にある「変り塗標本」が、刀剣の鞘の装飾である「鞘塗」にあたることから、いわゆる御細工所で武器・武具の標本としてつくられたと推測しています。「綱紀は細工物の技術研究に深い造詣を持ち、工芸品の標本によってみずから作品に対して指示せんがために造らせたのだろう」というのです。「この標本はすべて実用性を本意として、耐久性に富んでいるので、武具類を収蔵する調度品に塗装せんがための標本と想像される」とは、漆芸に携わる者だからこそその指摘です。

一方、当館前館長嶋崎丞は、綱紀の「博物趣味」、いわば収集癖に着目します。今回の特別陳列にあわせ、平成五年発行の『百工比照』の改訂版を刊行しますので、あわせてご一読ください。

前田育徳会が所蔵する重要文化財『百工比照』については、当館においても何年かに一度展示し、五代藩主前田綱紀による「日本工芸における各種標本の集大成」と紹介されますが、これでは少しわかりづらいので、今号では、かつて漆芸作家の新村撰吉と漆芸研究家の郷家忠臣が記した文章から、『百工比照』を紹介しましょう。ふたりは「蒔絵梨子地類」と「色漆類」について、詳しく紹介しています。

「蒔絵梨子地類」は、それぞれ金・銀・錫の金属粉が蒔かれた小板が五段七列に並び、その数は一八七種を数えます。脇には金字で名称が記され、蒔絵粉の種類と各種技法がわかるのです。

「たとえば『焼金中あらこいやすりこ』ということはその例を挙げ、『焼金』は純度の高い粉の種類を

あらわし、「中」は焼金のあらさの度をいい、「あらこ」は蒔いている状態を指すといっています。蒔きの状態には「こい」「中」「うす」の段階があるというのです。すでに蒔絵粉には豊富な種類があり、技法の種類が細分化されていたことに驚いています。

そして「当時の梨子地粉は今日の平目粉の厚みに類似していて、まことに重厚感がある」とその素晴らしさを述べます。「金梨子地に刑部平目を蒔き散らした標本板はまことに当時の蒔絵の遺品によくあるようである。また各種さまざまな金属粉の標本板もみごとに作品といわねばならぬ。」と、『百工比照』の魅力を語っています。

優品選

9月18日(土)~10月17日(日) 会期中無休

夜来の風に秋を感じるこの頃、優品選にも秋の気配が漂います。特に日本画では、季節終わりの寂寥感と秋ならではの彩りを味わってください。

東山魁夷《瀧》は、黒々とした岩肌に轟々と落ちる水の姿を描いた大作です。てらいの無い作画に気骨が感じられます。山本隆《質屋》は、お世話になりたくない「質屋」をテーマにしなが、どこかユーモラスで、物悲しい風景となっています。

油彩分野からは、国本克己《みりのり》をご紹介します。大切そうに果実を手にする女性と、こぼれんばかりの果実を運ぶ女性が描かれ、夜空には大きな月が浮かびカラスが舞う、幻想的な作品です。本作のよう

な「月と女シリーズ」は、国本の画業の集大成です。今年の中秋の名月は九月二十一日、実りの秋ももうすぐです。

版画分野では、現代社会の人間像を幻想的に描いた堀井英男の作品を展示いたします。画学生時代にアンフォルメル風の盛んな時を過ごし、抽象絵画の洗礼を受けた堀井。演劇にも親しみ、それが作品にみる舞台的な画面づくりを感じさせます。詩的感覚豊かな感性をもつ堀井の色彩銅版画をお楽しみ下さい。

彫刻分野では、特集「没後50年 木村珪二」を引き続き開催いたします。二〇二一年に没後50年を迎える金沢市出身の彫刻家・木村珪二の、初期から晩年までの作品を一堂に展示いたします。



山本隆《質屋》

古九谷と再興九谷Ⅱ

9月18日(土)~10月17日(日) 会期中無休

先の企画展「加賀百万石 文武の誉れ―歴史と継承―」では、加賀藩三代藩主・前田利常が推進した古九谷の生産を、禁教の状況下で、キリスト教信仰が日本・東洋文化と高度に融合した文化的所産として再考しました。文武二道の精神から、利常は江戸幕府に対して文化力で挑みました。そこで江戸では実現できない美的完成度の高い色絵磁器の生産と、高山右近ゆかりの地として、幕府が禁止したキリスト教信仰の観念的な受け皿となることが両立できれば、それは幕府に対してこの上ない文化的痛打を浴びせることとなるとの観点から、古今東西の名品の収集や、名工の招聘・支援に続いて古九谷のプロジェクトが具体化されたと考えられます。

伝存する作品や、九谷磁器窯跡出土の資料などから、このプロジェクトには日本・東洋の画題に精通し

た一流の画家や、セミナーオで西洋絵画を学んだ画家、さらには日本の色絵を大成した野々村仁清も参画していたことが明らかになってきました。そして彼らの創意と利常の気概が絶妙に呼応して、世界陶磁史の中でも類を見ない「美の高さ」をもった色絵磁器・古九谷が誕生したと考えられます。

したがって、利常が一六五八年に亡くなり、またプロジェクトの実際の推進者だった大聖寺藩初代藩主の前田利治が一六六〇年に亡くなって以後、当然古九谷にも質的転換がありました。たとえば一六七〇年代以降に『八種画譜』から着想を得て絵付けがなされた一連の作品には、当初とは異なる意識が感じられます。このように古九谷には、まだまだ整理すべき課題が多々あり、それは再興九谷にも波及すると考えられます。



石川県指定文化財《青手桜花散文平鉢》古九谷

ミュージアムショップのおすすめグッズ

石川県立美術館のミュージアムショップでは、収蔵品をモチーフにしたグッズや展覧会図録、古九谷の写しなど、バラエティ豊かな商品を取り揃えております！今回は、当館でしか手に入らないオリジナル一筆箋を紹介いたします。

・国宝《色絵雑香炉》(上)

珍しい横書きです。少しざらざらした丈夫なこの紙質、ぜひ触ってほしい一品です！

・《笹に兎図》久隅守景(左)

縦書きです。丸々としたうさぎがかわいらしい人気商品です。

・《青手桜花散文平鉢》古九谷(右)

たくさん書きたい方はこちらがオススメ！青・緑系でおしゃれに決めましょう。

(各300円)



屋内で過ごすことも多いこの頃。お手紙を書いたり、贈り物をしたりするときのお供におすすめてですよ。通信販売(送料別)も承ります。お問い合わせは以下の宛先までどうぞ。

石川県立美術館総務課 ミュージアムショップ担当

☎076-231-7580

学芸室の人々

村瀬博春(修復工房 担当課長)

十二歳の時、BBCの「芸術と文明」を見て芸術を研究する職業に就きたいと決意しました。学芸員生活も四十年に及び、すべての部門、材質を担当しました。この間県文化振興課で県立音楽堂、文化財保存修復工房、九谷焼美術館の整備にあたり、長期海外派遣研修では欧州でルネサンスからバロックの絵画を調査しました。そしてこれらの経験に基づき、知識科学の博士号を取得しました。

こうした「修行」により、漸く「審神者」の入口が見えてきました。刀剣に限らず、自己を放下して作品の語りを傾聴することは学芸員の基本ですが、その厳しさを日々痛感しています。

9月の行事予定

■映像ギャラリー	14時30分～15時30分	美術館ホールにて	無料
19日(日)	「続・美術のみかた 8 絵画からデザインへ」 「シリーズ北陸の工芸作家 石川の匠たち 土火への祈り」 大樋焼十代大樋長左衛門(24分)	「アール・ヌーボー様式」(24分)	

※日時や定員等を変更、または中止する場合がございます。

最新情報は当館公式ウェブサイトをご確認ください。

〔参加者募集!〕

令和3年度 友の会第19回バスツアー

体験! 富山の工芸～高岡鋳物と井波彫刻～

今回は感染症対策を考慮し、定員を通常の半分としました。定員を絞ることで可能となった鋳物製作体験を含む、友の会バスツアーの新しい試みをお楽しみください。

開催日/令和3年10月16日(土)

集合時間/午前8時15分

発着/金沢駅西口団体バス乗り場

参加代金/友の会会員 11,000円

会員以外 12,000円

※どちらも体験料2,500円を含みます。

募集定員/20名

◆見学地

【株式会社 能作】

錫製品の鋳造工程を体験(小皿または箸置き)をします。職人さんと同等の本格的な方法を体験し、鋳物への理解を深めてみませんか。

※90分間立ちっぱなしの作業となります(力の必要な作業もあります)。心配な方は事前にお問い合わせください。一部見学などの対応が可能です。

【モメントムファクトリー・Orii】

伝統的な銅製品の着色技術を駆使するモメントムファクトリー・Orii。実際に作業が行われている工場内で着色工程を解説と共に見学します。色が変わり変化する様に驚くこと間違いなし!

【井波・八日町通り町並み散策】

「井波の風」というガイドさんに井波の歴史や伝説についての話を伺い、彫刻の工房が軒を連ねる八日町通りを散策します(緩い坂道を10～15分程度歩きます)。運が良ければ木彫りの様子が見られるかもしれません。

【瑞泉寺】

お寺の由緒や歴史を解説していただきます。山門や本堂には随所に井波彫刻が施され、見ごたえ抜群です。井波彫刻の元祖とされる「獅子の子落とし」も必見です。

◆申込み方法

以下の内容を記載の上、往復はがきもしくはメールにてご応募ください。

※1通のはがき・メールで2名以上の申込みをされる場合は、下記の内容を人数分ご記載ください。

①往復はがきの場合

往復はがき裏面…「美術館バスツアー希望」と明記の上、氏名・年齢・性別・郵便番号・住所・電話番号・会員

番号(ある方のみ)、製作体験で希望するもの(小皿または箸置き)をご記入ください。

返信はがき表面…返信先(ご自身の住所)をご記入ください。

※消えるボールペンは使用しないでください。返信はがきの裏面には何も記入しないでください。

②メールの場合

件名…美術館バスツアー希望

本文…氏名・年齢・性別・郵便番号・住所・電話番号・会員番号(ある方のみ)、製作体験で希望するもの(小皿または箸置き)

※応募者多数の場合は抽選になります。

◆応募先

〒920-0963 金沢市出羽町2-1

石川県立美術館バスツアー係

ishibi@pref.ishikawa.lg.jp

応募締切/9月10日(金)必着

※感染症の状況により、バスツアーの中止、見学地の変更および減少となる場合がございます。あらかじめご理解のほどよろしくお願いいたします。

※持病などをお持ちの方は、体調と相談の上お申込みください(当日、医療従事者は同行しません)。



製作体験では箸置き(左)もしくは小皿(右)を作れます



製作体験の様子

《金銀象嵌鴛鴦香炉》 きんぎんぞうがんおしどりこうろ

幅15.4cm 奥行8.1cm 高さ10.3cm
昭和45年(1970)

米沢弘安 よねざわ・ひろやす

明治20年(1887)～昭和47年(1972)



鴛鴦わしどりは東アジアに分布する水鳥で、日本でもよく見られます。特に冬から春にかけての雄の姿が美しいことで知られ、日本の美術工芸においても古くから好んで描かれ、装飾に用いられてきました。

本作品は鴛鴦の姿を模した香炉です。背中のとこに煙出しの穴が開き、ピンと立ち上がった銀杏羽ごと蓋として外れるようになっています。表面には象嵌によって華麗な模様が表現されています。特に胸のところにあしらわ

れた唐花唐草紋と、両翼の部分の青海波模様はに羽毛の模様を加味したような表現が目を引きまます。写真では見えませんが、底の部分には可愛らしい脚まできちんと鑄出されています。

作者の米沢弘安は、大正十年頃に雌雄での鴛鴦香炉の制作を企図しました。下図が完成したのち、初代三階千嶺さんがいせんれいに木型が依頼されました。大正十一年六月に雄が完成し、第一回石川県工芸奨励会員作品展に出品され、三等賞受賞、次いで十四年にパリ現代装飾美術・工芸美術国際博覧会に出品され、名誉賞を受賞します。この時の作品は現在行方がわかりませんが、同時に鑄造してあった雄の型を使って、昭和四十四年に制作されたのが本作品です。

七月十日からの展示では、金沢市が所蔵する重要有形民俗文化財《加賀象嵌製作用具》の中から、鴛鴦香炉を作るために準備された図案と木型をお借りし、いっしょに展示することができました。また米沢弘安が実際に使用していた加賀象嵌の道具類も一部展示し、制作現場の雰囲気を感じていただけるようにしました。

次回の展覧会

令和3年10月23日(土)
～12月5日(日)
会期中無休

前田育徳会 尊経閣文庫分館	第2展示室	第3・6展示室	第4展示室	第5展示室	1F企画展示室
中国憧憬 一周文の《山水図》 と唐物一	石川の文化財 一国宝・重文・ 県文・市文一	優品選 【近現代絵画・彫刻】	REFLECTION 一光の記憶一 松崎十朗展 【近現代絵画】	優品選 【近現代工芸】	第68回 日本伝統工芸展金沢展 (10/23～11/3)

ご利用案内

コレクション展観覧料

一般 370円(290円)
大学生 290円(230円)
高校生以下 無料
※()内は団体料金

9月の開館時間

午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間

午前10:00～午後6:00 年中無休

ミュージアムショップ営業時間

午前10:00～午後6:00

「石川県立美術館だより」に広告を掲載しませんか？

石川県立美術館友の会会員、石川県立美術館協力者、
県内各行政機関及び文化施設、全国の美術館・博物館へ

郵送配布!! 3,000部発行

ターゲットを狙った
知名度向上

県立美術館発行の
信頼度の高い広報媒体

お問い合わせは ☎092-716-1401

株式会社ホープ 福岡県福岡市中央区薬院1-14-5MG薬院ビル7F
東京証券取引所マザーズ上場 福岡証券取引所Q-Board上場 財源確保 検索

石川県立美術館だより
第455号(毎月発行)
2021年9月1日発行
〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580
Fax:076(224)9550
URL <http://www.ishiki.pref.ishikawa.jp/>

石川県立美術館は電源立地地域対策交付金を活用して運営しています。